

## Ⅱ—3 オムロンコミュニケーションプラザ

調査先	: オムロン（株）コミュニケーションプラザ
住 所	: 京都府京都市下京区塩小路通堀川東入
開催日	: 2012年11月12日
参加者	: 7名
記	: 坂津 務*

### 1. はじめに

当委員会では、注目技術の技術開発やビジネス展開を行っている研究所・企業の調査、見学を行い、会員会社に広く紹介していく活動を行っている。

今回、オムロンコミュニケーションプラザを見学する機会を得た。世の中の移り変わりと共に、時代を先取りした価値創造を継続的に社会に提供し続けているオムロンは、高い企業理念を基に企業活動を実践している。



Fig.1 オムロン「啓真館」

(<http://www.omron.co.jp/about/>より)

### 2. コミュニケーションプラザの概要

京都駅から徒歩で行くことが出来る啓真館 (Fig. 1) は、オムロン京都本社横に建つガラス張りの特徴的な形をしたビルであり、コミュニケーションプラザは本ビル内に2007年7月に開設された。

オムロンの歴史を紹介する史料展示スペースと先端技術を紹介する技術展示スペースを合わせた施設で、創業から現在、そして未来につづく取組みを展示しており、オムロンの魅力に触れることができる施設となっている。

### 3. 見学内容

受付にて iPod を借りることができ、音声ガイドにより各展示物の詳細説明を聞くことができる。技術のフロアと歴史のフロアに分かれており、技術のフロアでは最先端技術を体験しながら理解することができ、歴史のフロアでは創業から現在のオムロンの歴史を紹介している。また、オムロンの経営理念やスローガンについての展示も充実している。

#### 3.1. 技術のフロア

オムロンでは、「安心・安全」・「健康」・「環境」に向けた製品・サービスの開発、提供を行っており、このフロアでは代表的な技術が展示される。(Fig. 2)

\* 技術調査小委員会委員

### 1) 安心・安全

安全な車づくり、工場の安全確保、製品品質の向上、企業におけるセキュリティの強化から、安心して快適な駅や街づくりまで、安心・安全な社会づくりに向けた取り組みが紹介されている。

#### ・OKAO キャッチ

「ひと」の顔を認識し、年齢や性別を推定する技術を体験できる。カメラの前を通りかかると、カメラが人の顔をキャッチし、顔の表情を読み取り、その人の笑顔度を測定してくれる。

#### ・顔向き推定技術

2次元の顔画像から、目・鼻・口の位置を読み取り、顔の向きや状態を推定することができる。運転操作をしながら顔を横に向けると、カメラがよそ見をチェックして警告を出すなど、安全なクルマへの取り組みをカーシミュレーターで体験できる。



Fig. 2 技術のフロア

### 2) 健康

生体情報センシング技術による各種健康機器の高度化や家庭と医療現場を結ぶホームメディカルケアの推進など、より健康で健やかな社会づくりに向けた取り組みを紹介している。

#### ・中心血圧計

1分間で、測定困難であった中心血圧を測定・診断。高血圧の正確な診断には、上腕血圧に加えて、心臓に掛かる中心血圧の測定が重要ということが分かっている。得意のセンサー技術を生かし、カテーテルを使用しなければ測定が困難だった中心血圧を脈波を使って簡単に測れる中心血圧測定装置を製品化した。

### 3) 環境

独自の技術やノウハウを生かした環境にやさしいサービスや製品の創出など、エコロジーとエコノミーの両立を目指した取り組みを紹介している。

### 3.2. 歴史のフロア

創業から現在に至るオムロンの歴史を見ることが出来る。「製造業の生産性向上をめざして」、「市民生活の革新をめざして」、「人と機械の新しい関係をめざして」の3つのコーナーにわけられていて、年代を追って取り組んできた歴史、製品を見ることが出来る。また、経営の歴史、創業者・立石一真氏からのメッセージも展示されている。

#### 1) 製造業の生産性向上をめざして

オートメーション時代への挑戦（1933～1960年頃）と題して、世に先駆けて数々の画期的なオートメーション用機器を送り出し、日本の製造業の生産性向上に貢献した取り組みを展示している。

#### 2) 市民生活の革新をめざして

サイバネーション革命への挑戦（1960～1970年頃）と題して、高度経済成長期の市民生活を支えたオムロンの技術を紹介している。くらしの便利さを実現する技術革新として、「サイバネーション」という概念を提唱し、「人間はより人間らしく、機械にできることは機械にまかせる」社会をめざした。

#### ・電子自動信号機

科学警察研究所から依頼を受け、「車両検知機および信号制御システム」を開発。1964年に世界初の電子自動交通信号機を東京九段三丁目交差点に設置した。

#### ・自動改札機

研究開発-試作機実験-調整を繰り返し、大阪万博3年前の1967年に定期乗車券自動改札装置の実用化に成功。乗車券販売機、定期券穿孔機、紙幣両替機、自動改札機を組み合わせた世界初の無人駅システムを実現した。このコーナーでは最新の自動改札機にて切符が機器の中を運ばれる様子を実際に見ることが出来る。

(Fig. 3)



Fig. 3 切符の動きが見える自動改札機  
(<http://www.omron.co.jp/about/>より)

3) 人と機械の新しい関係をめざして

高度情報化への挑戦（1970～2000年頃）と題して、あらゆる分野のコンピュータ革命に対して3C（コンピュータ、コミュニケーション、コントロール）の技術革新を進めてきた取り組みを紹介している。

社会と科学と技術のあり方と未来に目を向け、技術の上に先を見通す力が必要だとの強い信念から、未来予測理論「SINIC理論」（Fig. 4）を発表し、社会的に大きな反響を呼んでいる。

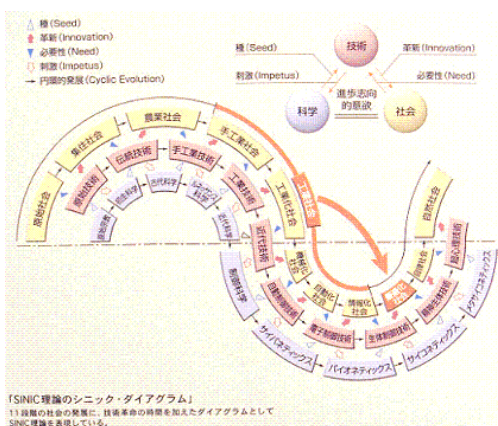


Fig. 4 「SINIC理論」

(<http://www.omron.co.jp/about/>より)

3.3. 経営理念とビジョン

1) 経営の歴史・商品開発の歴史

1933年の立石電機製作所としての創業から、21世紀の今日に至るまでのオムロンの歴史と実績を一覧で見ることが出来る。

2) 創業者・立石一真からのメッセージ

オムロンの創業者である立石一真氏の91年にわたる人生と、その仕事哲学を紹介している。

奉仕優先・消費者優先なくして企業の反映はありえ

ない、という「最もよくひとを幸福にするひとが良く幸福になる」という名言も紹介されている。（Fig. 5）

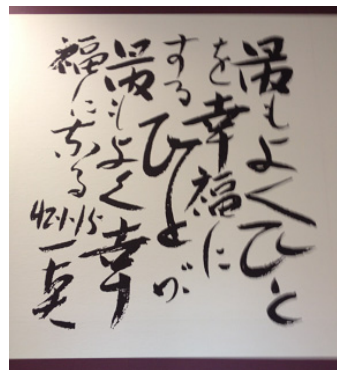


Fig. 5 立石一真氏の言葉

4. おわりに

創業者立石一真氏の「企業は社会の公器である」という企業理念の紹介もされている。「企業は社会に役立ってこそ存在価値があり、利潤を上げることができ、存続していける」という理念が、創業以来のオムロンの活動に終始一貫して貫かれており、展示されている様々な活動すべてのベースにそれが共通している。確かな技術力とゆるぎない経営理念にオムロンの今後の発展を感じることができる。

以上

禁 無 断 転 載

2012年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」“Ⅱ-3”部

発行 2013年4月

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

技術委員会 技術調査小委員会

〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目 25 番 33 号 NP 御成門ビル

電話 03-5472-1101(代表) / FAX 03-5472-2511